

歴史的な名作品からインテリアエレメントへーデザイン手法の提案ー

相山女学園大学 生活科学部 生活環境デザイン学科
インテリア・プロダクト分野 滝本研究室 A22AB098 中野礼菜

▼01 研究の背景

インテリア市場には数多くの歴史的な名作家具が存在し、現在においても繰り返し生産されている。これらの家具は、アンティーク家具として好まれ、長い間受け継がれている。一方で、同年代のインテリア空間は日本ではほとんど現存していない。その結果、現代の空間にアンティーク家具を置くという表面的かつ断片的な継承に留まっているのが現状であり、空間全体としての継承には至っていない。

▼02 研究の目的

本研究では、伝統的技術を現在の生産システムで再現し、技術の伝承に繋げることを目的とする。現在のインテリア工法を用い、現行法規にも適応するインテリア設計の方法論およびデザイン手法の展開を目的とし、歴史的な名作品におけるインテリア設計システムの優位性を明らかにする。

▼設計Ⅰ 歴史的な名作家具からインテリア空間へ

歴史的な名作家具は、当時の空間や生活様式と密接に結びつきながら生まれてきた。設計Ⅰでは、モチーフの構造や意匠を解体し、椅子の構造関係を空間構成へと再構築することで、家具からインテリア空間への展開を行う。

▼モチーフ：ダンテスカ

ルネサンス期に生まれ、詩人ダンテに由来する名称を持つダンテスカチェアは、湾曲する X 脚を特徴とする椅子である。構造体そのものが意匠として強く表れる形態を持つことから、モチーフとして選定する。

▼ディティール（A）と繰り返しモチーフ（B～I）

- A：脚部彫り込み

B：X 字の脚部

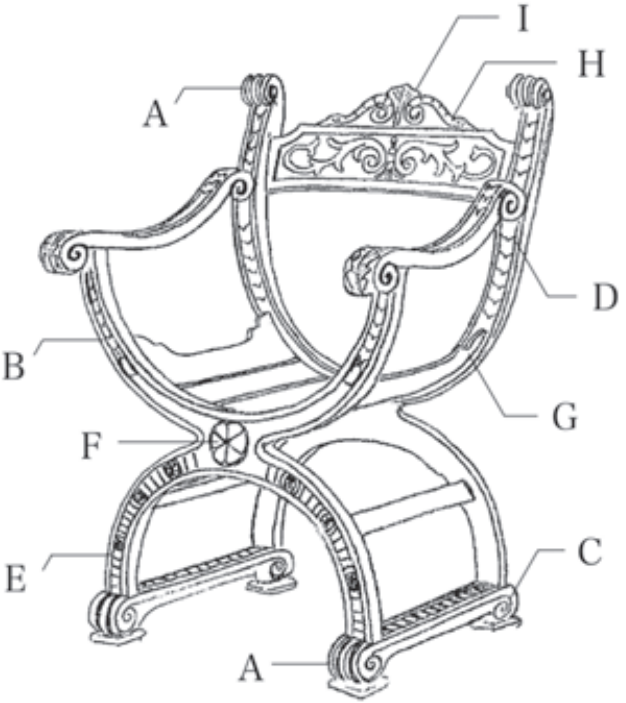
C：脚の補助材
- D：胴部彫刻

E：脚部彫刻

F：花モチーフ
- G：座面切り出し

H：笠木渦巻き

I：笠木切り出し



▼デザイン要素のデフォルメ（A～I）

A		C		F	
				G	
B		D		H	
		E		I	

▼03 デザインプロセス

1	2	3	4
モチーフの選定	デザイン要素の解体とデフォルメ	仕上げ材の選定	インテリアエレメントへの再構築
造形的特徴の明確なものをモチーフとして選定する	解体した要素の比率やスケールを調整し簡略化する	用途やモチーフの特徴を考慮した材料選定を行う	デフォルメした要素を空間や家具へと展開する

▼設計Ⅱ 歴史的な名作楽器からインテリア（椅子）へ

楽器は単体で成立するものではなく、演奏者の身体や、それを支える道具と深く関わる。設計Ⅱでは、楽器演奏時に使用する椅子に着目し、楽器・身体・椅子が一体となる関係性を意識した椅子の設計を行うことで、演奏行為を支えるインテリアの在り方を検討する。

▼モチーフ：ハープ

ハープは、時代ごとの建築やインテリアの影響を受けながら形態を変化させてきた楽器であり、装飾性と音楽的機能の双方が高度に発展してきた。本研究では、装飾と構造の関係性が明確に表れることから、ロココ調ハープをモチーフとして選定する。

▼ディティール（a）と繰り返しモチーフ（b～f）

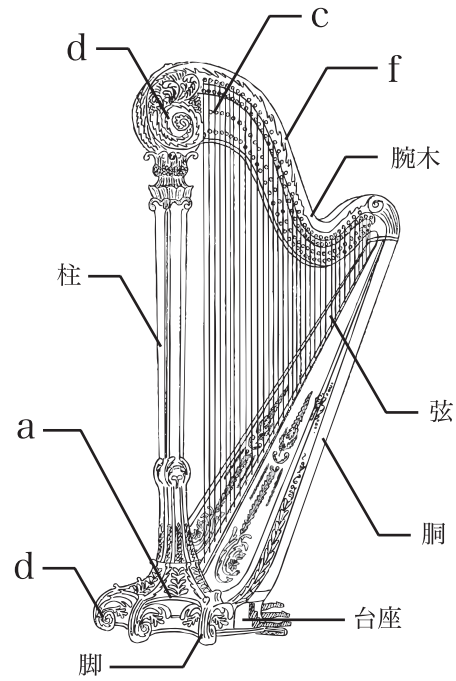
- a：台座の凹凸ディティール

b：最も特徴的な曲線フォルムと弦

c：ディスクと呼ばれる部品部分
- d：柱上部や脚部のスクロール

e：台座のアカンサス装飾

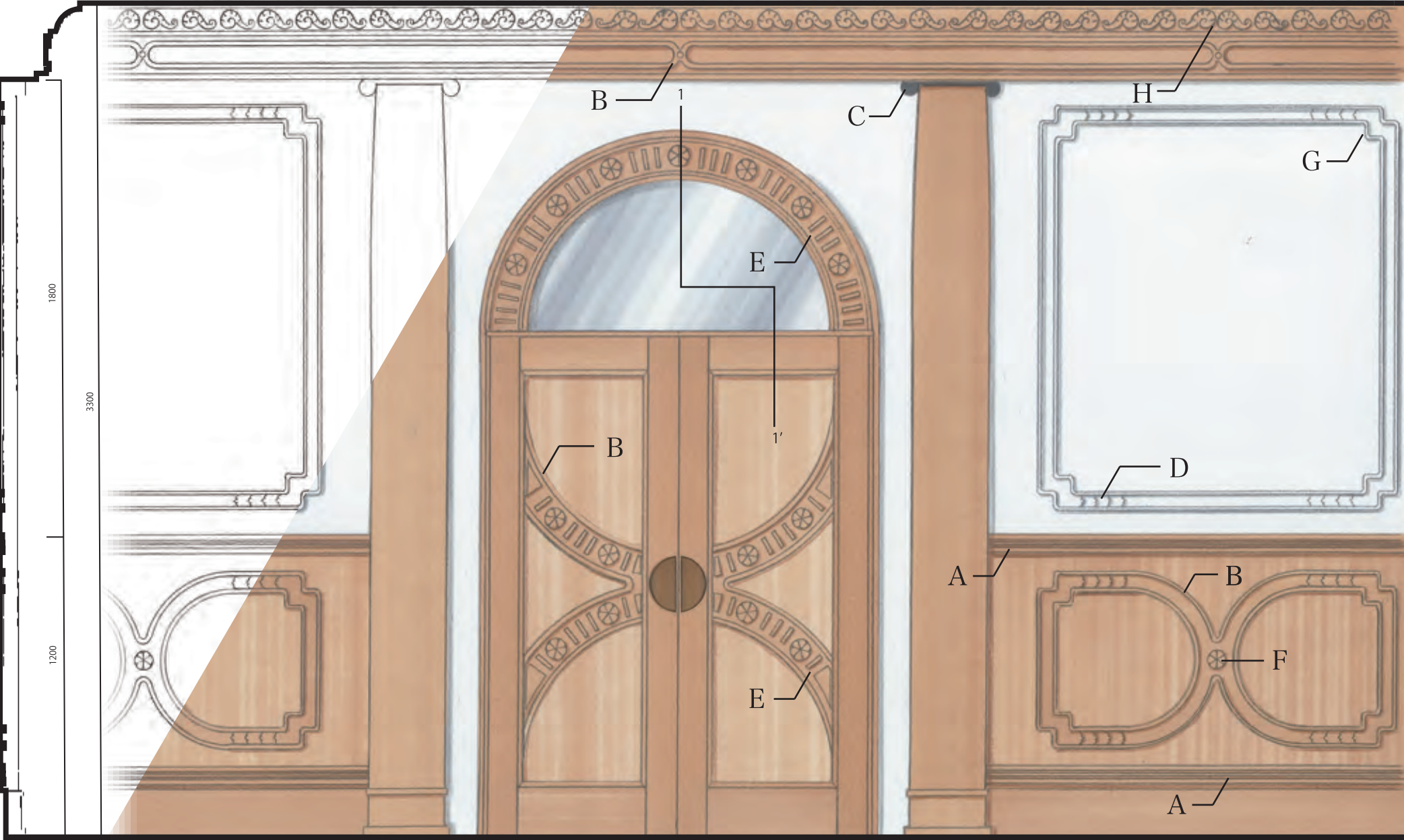
f：腕木や脚部のアカンサス装飾



▼デザイン要素のデフォルメ（a～f）

a		c	
b			
d		e	
		f	

設計 I ダンテスカってなんですか？



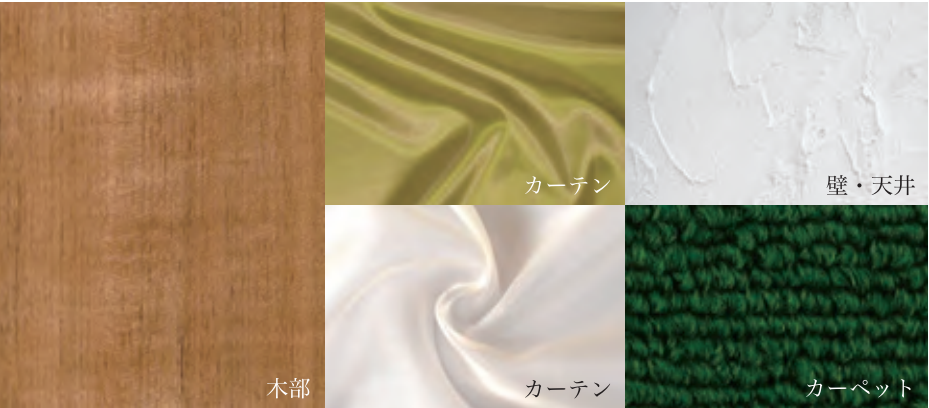
扉側矩計図 1/10

展開図 1/10：扉・壁の共通ディテールと繰り返しモチーフ



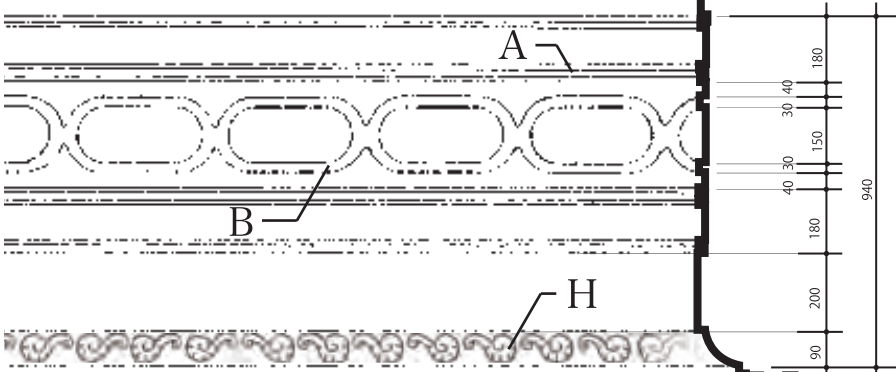
扉側平断面 1/10

▼仕上がりリスト



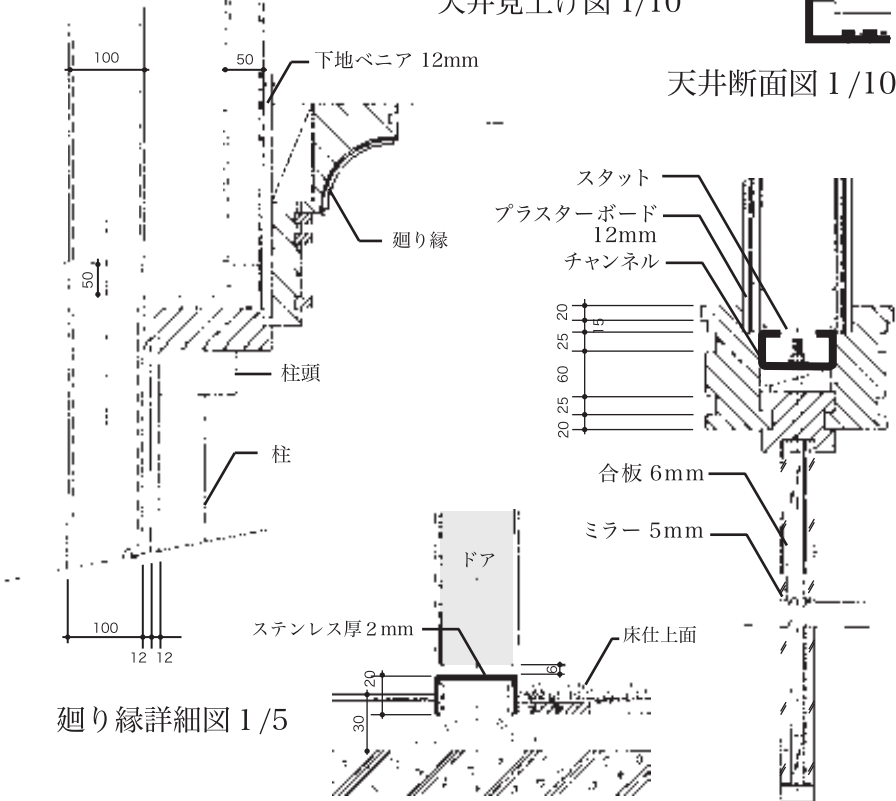
現行の施工システムに準じ、軽量鉄骨下地・木部練付材・乾式工法・工場生産で現場組立とする

壁・天井	プラスターボード 12mm+12mm
木部 (巾木・腰壁・柱・扉)	チーク練り付け ウレタンクリア塗装 高級感と深みを与えるチーク材を練り付けに使用することで、コストを抑える
カーテン	カーテン (室内側)：パールオリーブ シルクサテン 艶仕上げ 裏地付 レースカーテン (窓側)：オフホワイト ボイルレース 柔光・透過仕上げ
床	ウィルトンカーペット 10mm アンダーフェルト 8mm



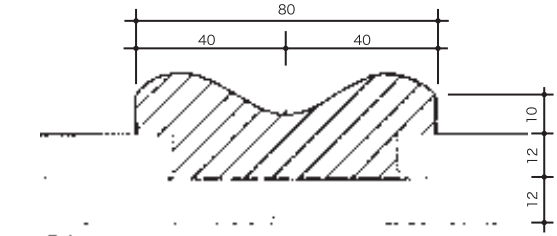
天井見上げ図 1/10

天井断面図 1/10



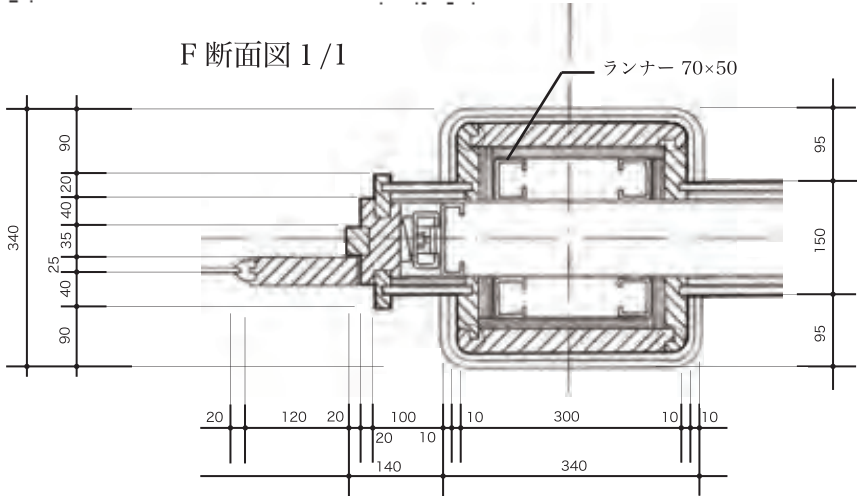
廻り縁詳細図 1/5

扉下断面図 1/2

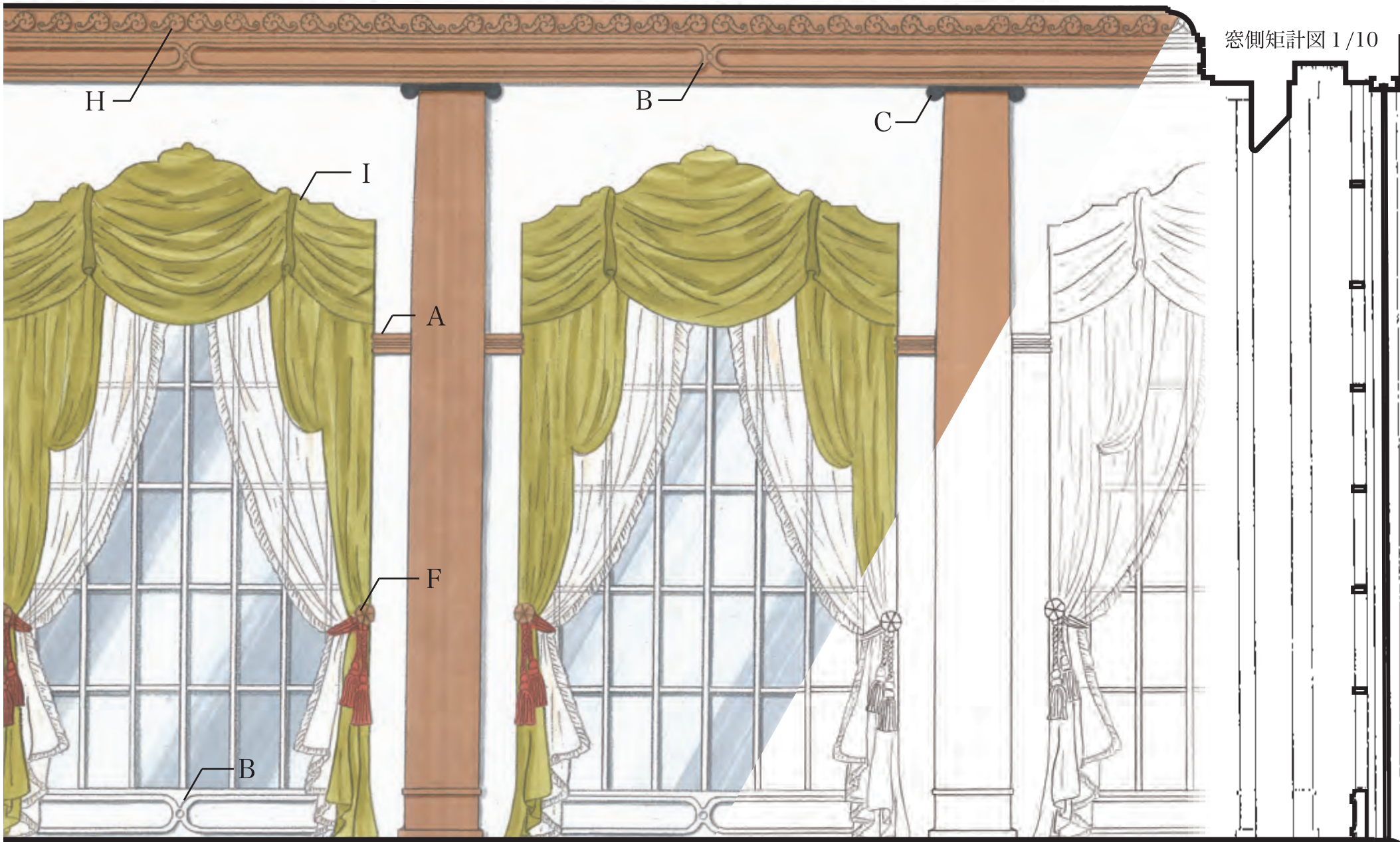


1-1' 断面図 1/5

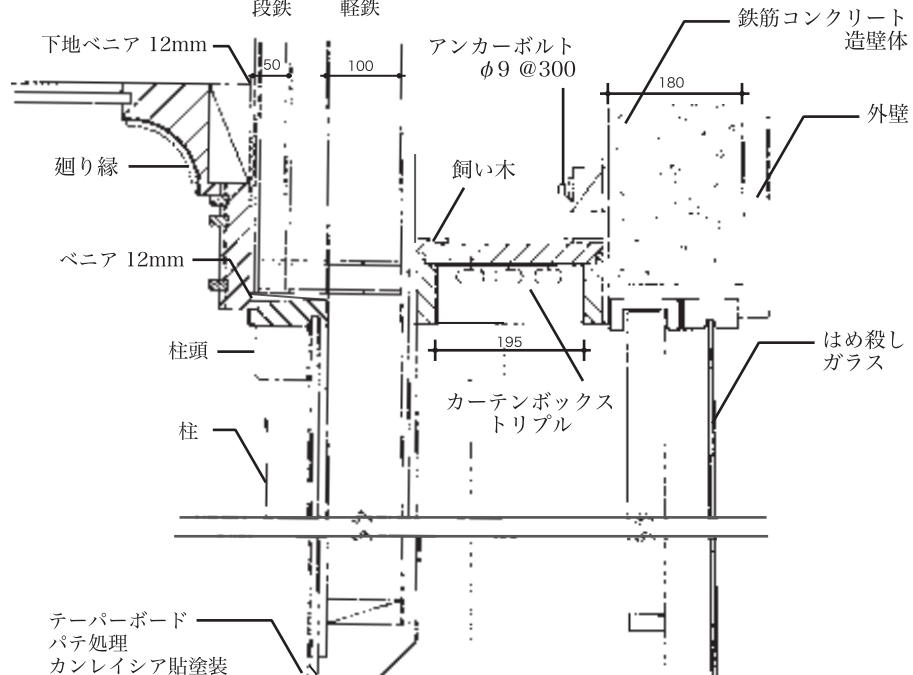
F 断面図 1/1



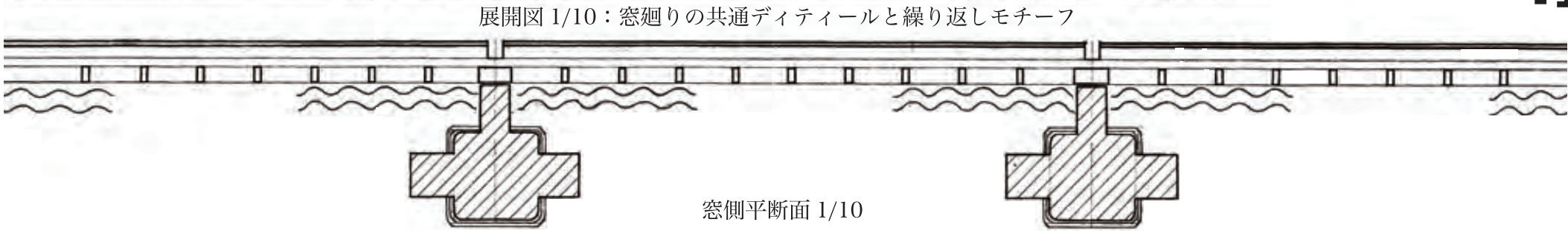
柱・扉詳細図 1/5



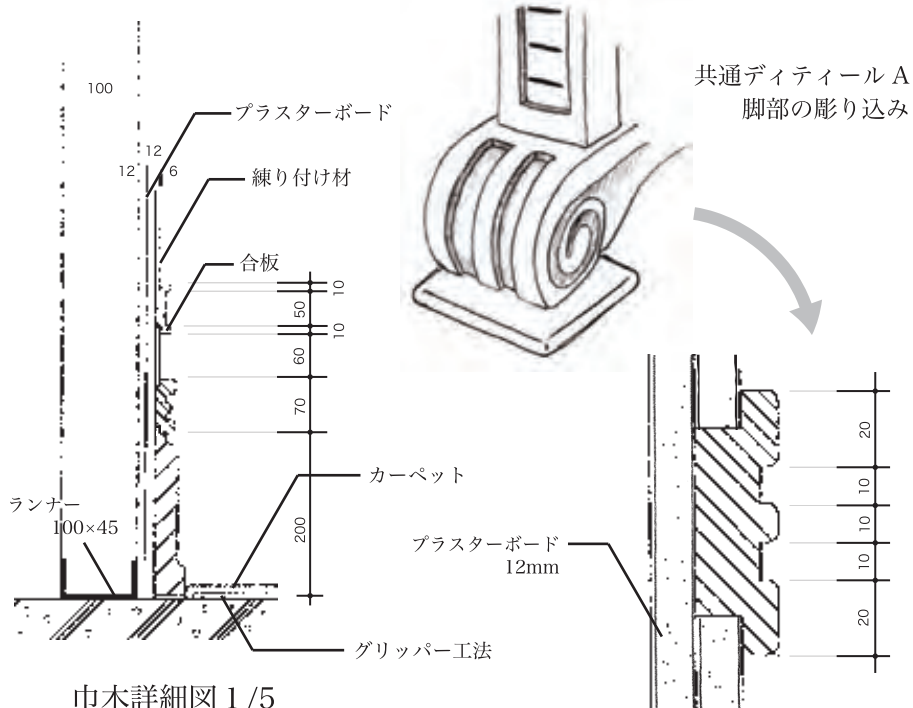
窓側矩計図 1/10



窓側廻り縁・サッシ詳細図 1/5



展開図 1/10：窓廻りの共通ディティールと繰り返しモチーフ

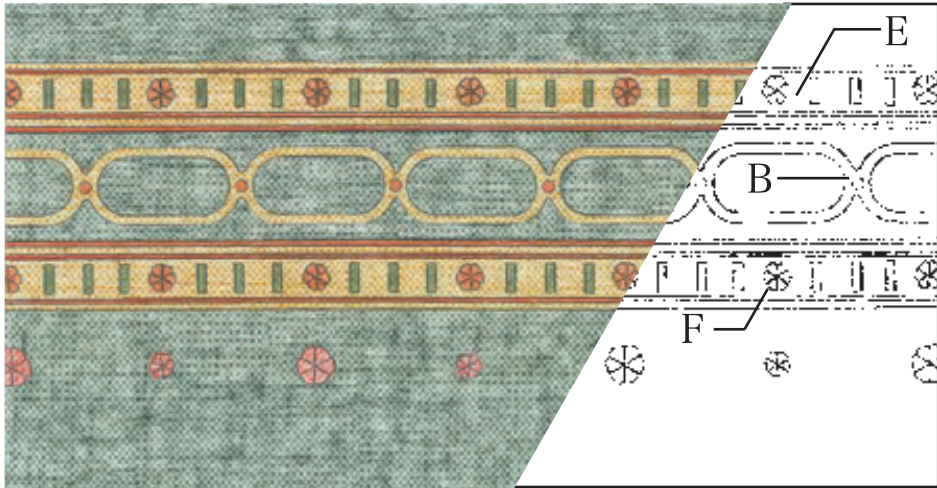


巾木詳細図 1/5

共通ディティール A
脚部の彫り込み

A 断面図 1/1

▼カーペットデザイン

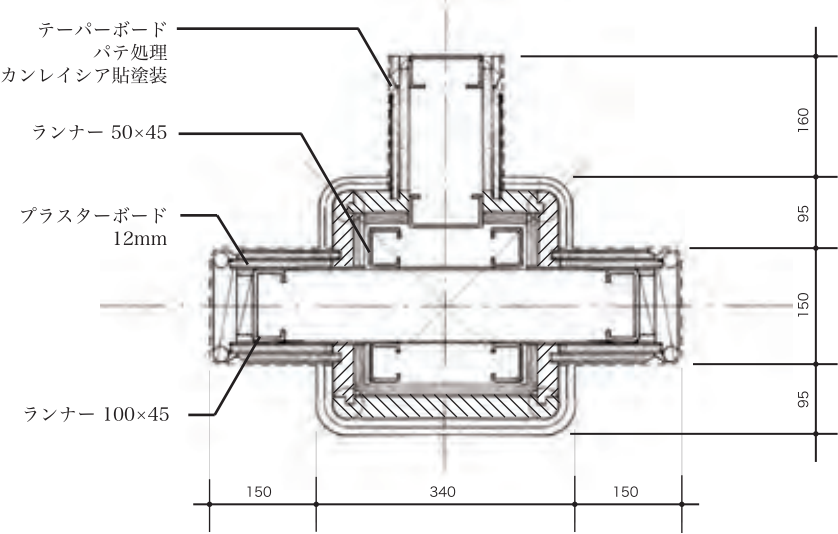


▼再構築リスト

A	巾木、腰壁、窓側の壁 2m のラインに用い、空間に締めりを与える		
B	主要モチーフは空間全体へ（扉鏡板・腰壁・廻り縁・カーペット）		
C	柱頭デザインへ 基本形状を保ったまま使用し、極端に小さいキャピタルとする		
D	壁面枠装飾へ	G	壁面枠装飾の四隅へ
E	扉鏡板・カーペットへ	H	廻り縁装飾へ
F	タッセル・カーペットへ	I	窓側衣装垂れ壁へ

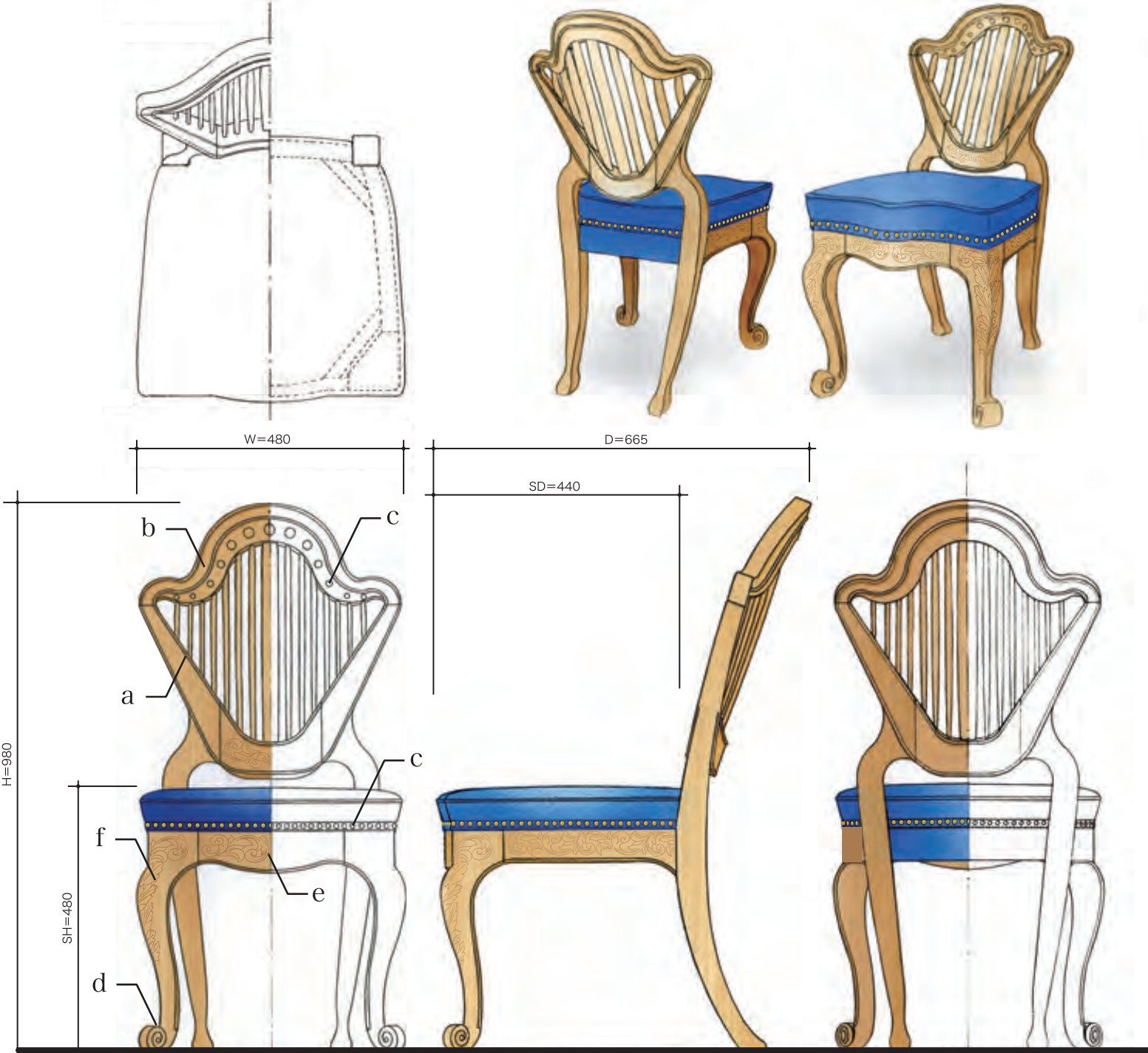
▼再構築の手順

はじめに、ダンテスカの最も象徴性の高い要素を主要モチーフとして抽出。設計 I では、X 字に交差する円形構成を主要モチーフとし、空間の各所に展開する。さらに、椅子の構造関係を空間構成へ置換することを意図し、笠木要素を上部、胴部要素を中間へと対応づけて再構成を行う。



窓側柱詳細図 1/5

設計Ⅱ Harp Frame Chair



ハープフレームチェア 1：5 （三角法）

▼ハープフレームチェアの設計における留意点

本設計は、ハープ演奏時に使用されることを前提とした機能面にも配慮し設計を行う。演奏中の身体の安定性、背もたれによる演奏動作への干渉の回避、ペダル操作を考慮した座面高および足元空間を踏まえ、以下の点に留意する。

- 身長 160cm の使用者を想定した演奏姿勢を安定させるやや高めの座面高
- 猫脚による視覚的な軽やかさと安定性、ペダル操作時の可動域を確保
- しなやかに反り返る背もたれ形状とすることで、演奏動作を妨げない設計

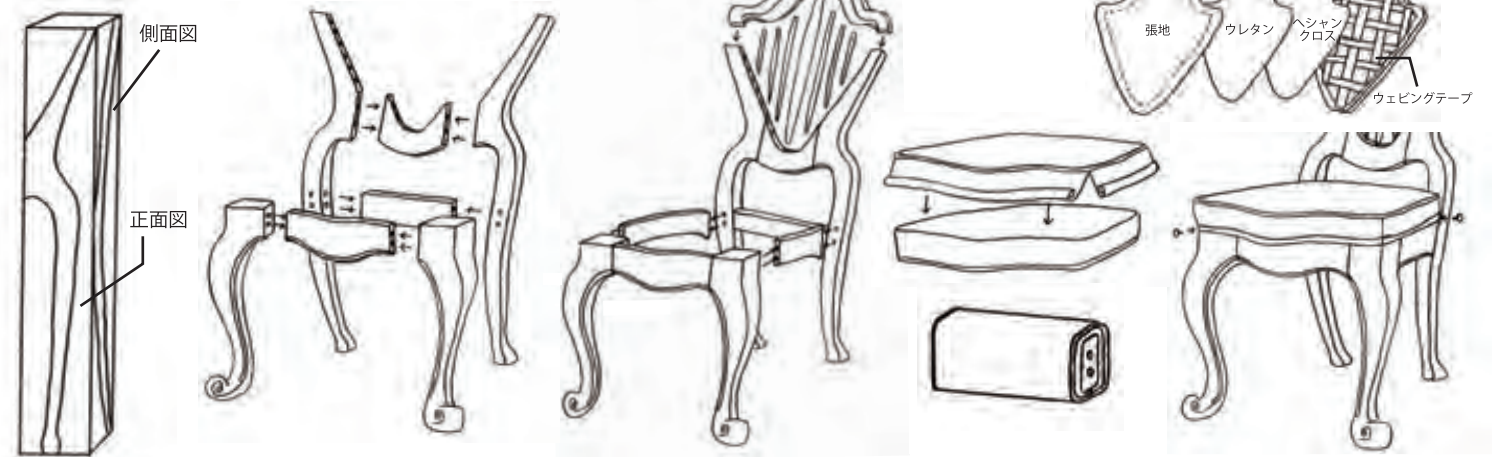
これらにより、ハープの造形的要素と演奏時の身体動作の双方に寄り添う椅子の設計とし、楽器・身体・椅子が一体となる関係性を目指す。

▼張地システム

弦を引用した背もたれのスポークをクッションへ変える、バリエーションの提案。同じフレーム部材でも、張地によって異なるデザインへと展開することが可能。



▼椅子組み立てシステム



- | | | | |
|------------------|--------------------|-----------------|--------------------------|
| 1. 集成材から各部材を切り出す | 3-1. 後脚、後幕板、背貫の接合 | 3-4. スポーク、笠木の接合 | 6. 背もたれクッション材と縫製された張地の固定 |
| 2. 切り出した木部の研磨 | 3-2. 前脚、前幕板の接合 | 4. 木部のクリア塗装 | 7. 座面張地仕上げ、鉤留め |
| 3. 各フレーム材の組み立て | 3-3-1. 側幕板、3-2 の接合 | 5. 後幕板の張地仕上げ | |

▼仕上げリスト

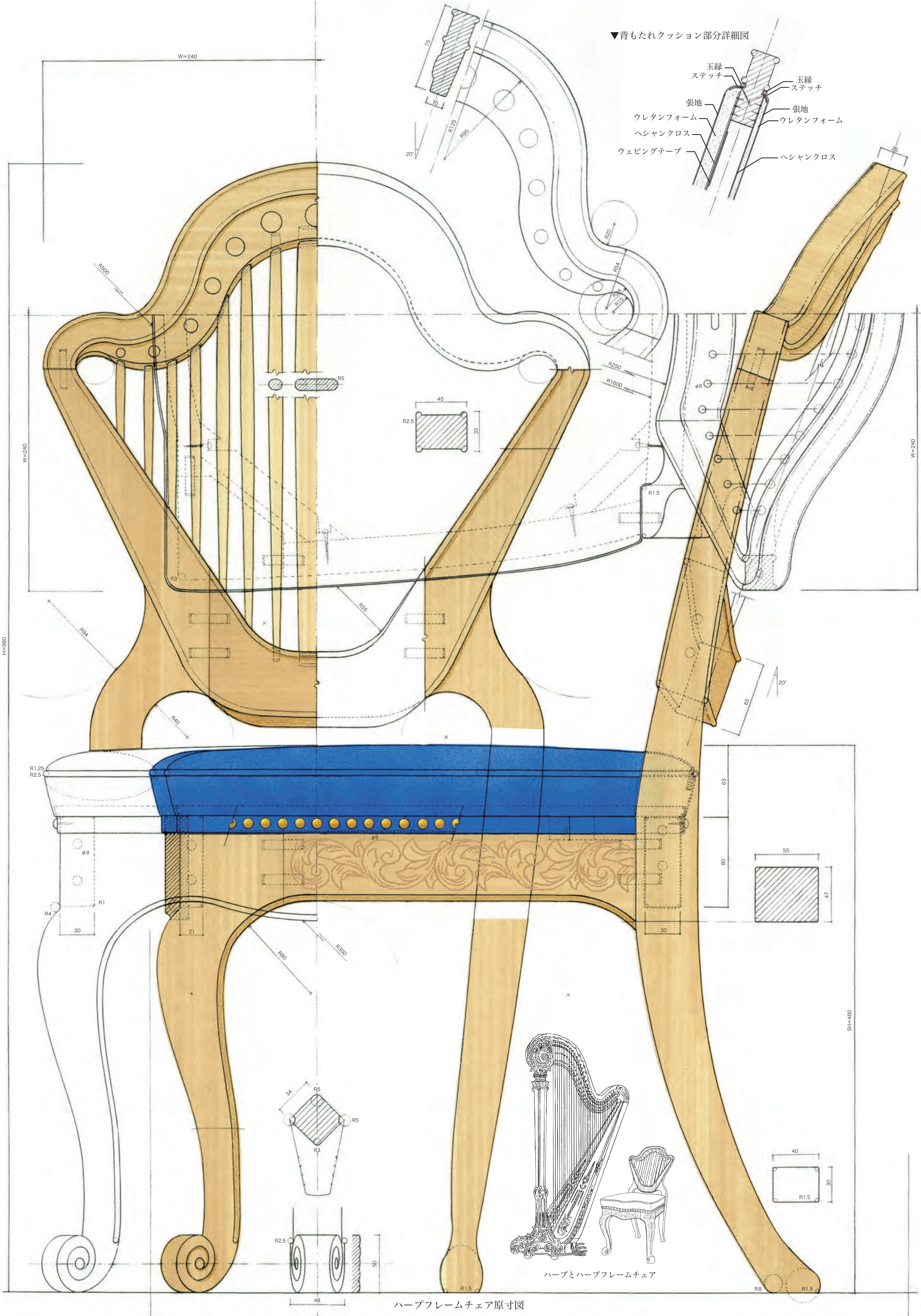
木部	メーブル材 ウレタンクリア塗装 主要木部には、実際に「ハープ」にも多く使用されるメーブル材を使用 ・硬く粘りがあり、曲線に向く ・明るく上品な色味がハープの曲線美に調和
張地	音楽的かつ格式的イメージを反映し、座面には深みのあるロイヤルブルーのベルベット生地を採用。また、座面を固定するゴールドの鉤は、青とのコントラストを生み出し、意匠的なアクセントとなる。



背面模型写真 S=1/2



正面模型写真 S=1/2



ハープフレームチェア原寸図

